

令和6年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度神奈川県立小田原支援学校第3回学校運営協議会	
開催日時	令和6年11月12日(火) 10:00~12:00	
開催場所	神奈川県立小田原支援学校 応接室	
出席者	委員6名(欠席2) 事務局9名	
次回開催予定日	令和7年2月25日(火) 10:00~12:00	
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎 副校長 杉山 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>会場参加及びZOOMによるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員 会場参加:5名、オンライン参加:1名 (欠席2名)</p> <p>1 会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも暑い日々が続いていたが、この頃は季節の移ろいを感じています。本日は、中間評価等について各委員の皆様にご意見いただきたい。よろしくお願いいたします。 <p>2 校長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明日から学習発表会が実施される。地域への開放は今年もせず保護者の方のみ、参観いただくこととしている。 ・後期に入ったところであるが、ボイラーが壊れ、対策を検討してきたが、修理はできないとの結論からエアコンで対応していくことにした。エアコンが整備されていない特別教室もあるが、太陽光の暖かさを利用する工夫や厚めの服を着るなど保護者の方へのご協力をお願いすることもある。県と調整をし、来年度の冬には環境が整備されるようにする。 ・教育アシスタント(非常勤実習助手)の運用を始めた。今年度限りの任用であり支援員さんの動きをしていただく(国際医療福祉大学作業療法学科との連携で、3年生3名、本校で教育実習をした学生2名など)。 ・来月高等部入学者選抜が行われる。知的障害教育部門は本校42名、分教室は28名(定員30名)、湯河原校舎5名の計75名。肢体不自由教育部門は本校4名、湯河原校舎1名の計5名、 	

新就学9名も含めて、286名が来年在籍予定となる。

- ・大きな事故もなく順調に来ている。本日は中間評価等をお話させていただきながら委員の皆様のご意見いただければと思います。

●学校評価部会

1 中間評価について

(杉山副校長より)

- ・令和6年度から令和9年度までの新たな学校教育計画及びブランドデザイン等に基づき、一年間の目標設定や具体的な方策等を策定した中での令和6年度に関する中間評価を各学部、校務グループごとにまとめた学校全体の取組み状況を説明した。また、各視点の重点目標のポイントを説明した。各所属においては、「子どもたち一人ひとりが輝く学びの場」となるよう目標達成に向けて、チーム一丸となって教育活動に取り組んでいる。評価はおおむね達成しつつある状況ですが、各所属での課題と改善策についてチーム内で共通理解を図り、5つの視点を教職員一人ひとりが意識して、引き続き、小田原校舎・湯河原校舎・大井分教室の三つの学びの場が一体となって、目標達成に向けた取組みを実践していきたいと思います。
- ・保護者アンケートの集計結果について説明した。回収率が半数程度(期限後提出分も合わせると実際にはもう少し多い)であった。教育活動に関する教職員への励ましやねぎらいのお言葉、肯定的な評価等の言葉をいただいた。教職員にとっても大変励みになるものであり、やりがいにもつながり、感謝している。また、ご指摘いただいたことについて、学校全体の課題として受け止め、子どもたちの学習や生活環境の改善及び今後の学校全体の教育活動、教職員の実践力向上につなげていきたい。

2 学校の状況について

(杉山副校長より)

- ・各所属に投げかけ、委員の皆様にお伝えしたいことを集約した。(各所属の取組みの様子を紹介)
- ※大井分教室の取組み(ジャンボタニシの駆除活動)については、TVKで取材された動画を鑑賞していただいた。

教務部：今年度から個別教育計画の新書式の運用が始まった。

学部によって目標設定や評価の難しさがある等の課題が見えてきた。今年度は課題や改善点を明確にして、研究班と連携しながら整えていきたい。

指導部：医療的ケア係の取り組みについて、事故防止の観点からヒヤリとするような事案を教員みんなでシェアしていく取り組みを行っている。成果として、大きな事故を無くしていこうという仕組みであり、シェアカードを活用しながら「報告ありがとう」というスタンスでみんな情報共有していく。自分事として考えることを目指し、壁に掲示して活用している。

総務部：環境部美化活動に今年度も取り組んでいる。保護者・生徒・教員の協働とし、県から10万円位の予算がついている。今年度は教員と保護者でB昇降口の壁のペンキ塗りを行った。

支援連携部：自立活動としてデジリハが本校で採択された。活用していきたい。

管理部：後程防災のVR体験をしていただく（部会にて）。

3 意見交換

<牛腸委員より>

- ・保護者アンケートの中で、子ども達とのコミュニケーションに関する評価が一番高い。児童生徒と接するうえで大切にしていることがあれば教えていただきたい。

→指導部（古賀）担任の子ども達への係りの様子をよく見るが、子どもの実態に応じて工夫されていると思う。カードを使うなど工夫がされている。保護者とのコミュニケーションは連絡帳を使って密に行っている。電話連絡なども行い、情報共有に努めている。

<安藤委員より>

- ・地域と連携した教育活動について
インクルーシブ通信は、様々な取り組みが紹介されているが支援学校の保護者としては当たり前のことなので、これらの広がりが社会に向けての希望の一步なのだろうと感じている。
- ・入選について人数の話が先ほど出たが、今年度全学部学年臨

時休業となっている。その理由をお聞きしたい（保護者としては気になるところ）。

→（校長）コロナのころは何かあった時の対応のために特別教室を開けておく必要があった。今年度は受験者数の増加、使用教室の増加、教員人数などの諸事情から、学校全体でやらないと難しい状況であり、全学部学年臨時休業とさせていただいている。

<山崎委員より>

・新就学定員6名という話を聞いた。保護者の中で噂的に情報が錯綜している。市町教育委員会に話すときは情報共有をしっかりと行うことが必要であると思われる（不安になることを言われて動揺するケースがあるので）。

→（校長）定員はない。ただ、学級編成において一学級6名とする枠はある。

→（杉山副校長）校内の2市8町の就学支援委員会担当者間でも情報共有し、保護者や本人の合意形成を適切に図り、本人にとっての学びの場が最適となるよう、教育相談や就学相談を実施する。

・ヒヤリハットの例を教えてください。

→指導部（古賀）「注入時に二股チューブの蓋から水分がもれた等」どうしたら漏れないかなどNsと教員で話し合い、可能性等を想定・対策を検証し、全体で共有している。

●部会会議（各部会）（別紙記録参照）

●学校運営協議会

1 部会報告

切れ目ない支援部会：支援連携部長より報告

- ・足柄小との人的交流についての報告。
- ・インクルーシブとしてよい取り組みを紹介（学校の中にある支援学校など）。
- ・縦の連携について。社会生活へ向けて、お互いの現場を見る機会を作っていきたい。支援学校にも見に来ていただきたい（支援シートなど紙媒体だけではわからないことがある）。

防災部会：管理部長より報告

- ・2学期の取り組みについて報告。

- ・各校舎からの報告。(個別避難計画 湯河原校舎で1名対象 小田原保健福祉事務所との連携)(大井分教室、大井高校の移転に伴い準備が必要)
- ・地震後、渡り廊下は崩落の危険性が高いことについて確認が必要。
- ・VR体験の紹介(火事・煙)

2 意見交換

<川端副会長>

- ・防災について
能登半島の地震に係る、教育の現場での被災状況・復興状況の情報はあるのか。また、支援には行っているのか。
→特に伝わっていない。情報も特にない。
- ・ボイラー等環境整備の経年劣化についてはどのような状況か。
→(校長)県にその都度予算要求して緊急性のあるものから対応しているが金額が大きくなると予算的に難しいものもある現状。今年度はアスファルト整備・ドアの改修などできるものから取り組んでいる。予算要求しながら取り組んでいるところである。

<鈴木会長>

- ・VR体験は一度やってみるとよい。子ども達もリアルな体験ができてよい。
- ・学部・校務グループの中間評価を細かくしっかりしていただいている。全職員で共有していただきたい。インクルーシブ通信は素晴らしい取り組み。気づきの大切さ。これが当たり前になることが大切であると思う。また、配付先も教えていただきたい。
→(三輪)紙ベースで全保護者へ配付している。足柄小などの全保護者にはデータで配信している。
- ・保護者アンケート(グラフより):取組みに対する高い評価(4:とてもそう思う)が多くて素晴らしい。5-問14は、5割を超える保護者が4を評価している。逆に赤の部分(3:そう思う)についてはもっと4(とてもそう思う)の評価がついてほしい部分であるので来年度に向けて達成を目指していただきたい。問7・8では、5年度と6年度を比較すると

(わからない) が減っている。このことについて、評価できることである。

<校長>

- ・ICT で進めていくことについて
クロームブックが10月に完全に行きわたった。
学校インスタグラムの立ち上げも検討している。今後発信していくことを計画しているのでよろしくお願いします。

◎第4回学校運営協議会は 令和7年2月25日(火)

【切れ目ない支援部会】

参加者 3名、欠席者 1名 事務局 2名

- ・(三輪) 足柄小学校との人的交流について。居住地交流の取り組みを行っている。足柄小で月に2回行っている児童がいる。居住地交流の授業案をホームページに載せて、地域での居住地交流の参考にしてもらえればと思っている。本校での希望者は増えている。小学部の1年生から居住地交流を行えるようになってから、1年生からの希望が多い。
- ・(川端副会長) 居住地交流はよい取り組みだと思う。長野県では、小・中学校の校内に特別支援学校の分教室がある。両方に籍が置ける。インクルーシブの先駆的な試み。障害のある子どもを地元で知ってもらうことが大切。
- ・(山崎委員) 長野県は、幼稚園保育園も同様の仕組みとなっている。児童発達支援を使わずに、校内で共に学びながら支援を受けられるシステム。就学時に保護者は学ぶ場の検討で不安やストレスを感じている。このシステムがあればそれもなくなくなる。受け入れの器を整えていって神奈川県でも導入できれば。
- ・(山崎委員) 小学校でのギフテッドの児童の支援が難しい状況がある。見過ごされやすいケース。支援級在籍だが、本人に合った支援がなされておらず、不登校になったりしている。海外では、検査をして、通常級において、違う教科書で違う勉強をしている。
- ・(山崎委員) 小学校などで、将来高等部卒業後事業所へどうつながっていくか、わからないままで支援が行われていること

が多い。小学校などでも、進路に向けて、今何をしていったらよいかという視点があるとよい。進路について知ることは必要なことだと思うので、地域の先生方が知る機会があるとよい。

- (三輪) 地域の小学校や中学校から、進路について知りたいというニーズが高い。進路を知って、今何ができるかという研修会を毎年依頼されている。本校の高等部の全保護者に配付している「進路のハンドブック」を本校ホームページに載せた。地域でも活用してもらえればと思う。
- (牛腸委員) : 地域の小学校に訪問しているが、発達障害の子どもたちの支援についてあまり理解されていないという印象がある。足柄小の取り組みにおいて、発達障害などの児童への理解を深めていくことなどで取り組んでいることは？
- (三輪) この研究では、支援級での支援というより、通常の学級でのインクルーシブ教育を重点的に取り組んでいる。通常級における多様性の理解の授業、支援級が通常級を招く交流のほかに、気軽なケース会を開催し(オンザフライミーティング)、それを記録に取り、蓄積していった、小学校の支援の財産となるよう取り組んでいる。また、本校の専門職や足柄小学校の先生による、特別な支援を必要とする支援についての研修会なども行っている。
- (牛腸委員) 先生が学校でどのような教育をしているのかあまり知られていない。先生方の普段の様子を見て、知ることが大切。また、学校の先生方に医療専門職のことを知ってもらえる機会があるとよい。大学では、リハビリについて、重心の脳性麻痺、支援教育の話はしているが、現場を見る機会が少ない。教育実習や一日見学で支援学校にも行ければ。以前足柄小学校の先生に授業に来てもらったこともある。
- (川端副会長) 事業所では、専門職が入っているところと入っていないところとある。その場所で行き止まりをアドバイスをもらい取り組む。支援級の実態を知りたい。支援シートだけではわからない。
- (まとめ) 現場を知ることが大切。いろいろな支援の場を見る機会を増やしていく。見ることによって、今何をすればよいかを学べるのでは。

【防災部会】

参加者 2名、欠席者 1名 事務局 3名

1 2学期の取り組み（報告）

(1) 9/4（水）引き渡し訓練

- ・地震、シェイクアウト後、保護者へ引き渡し訓練を実施

(2) 9/25（水）支援学校防災フェスタ見学（茅ヶ崎支援学校）

(3) 10/7（火）避難訓練（火災）

- ・火災を想定してグラウンドへ避難した。久しぶりのこともあって、反省すべきこともあったので改善していく。

(4) 9月に府川が参加した研修では、避難後の備えも大切だが、生き残ることが大事との話があった。実施の場面で生き残れるように訓練していきたい。

2 湯河原校舎・大井分教室について

湯河原校舎

- ・新しく買った担架（布）で避難訓練を行った。見ている側は怖そうだったが、介助している教員は楽に避難できたと言っていた。

- ・小田原保健福祉事務所と内閣府が行っている、個別避難計画に肢体不自由の児童1名が対象になっている。人工呼吸器の児童の避難ということをテーマにしている。

大井分教室

- ・2年後に大井高校がなくなるので、その後の準備が必要。
- ・設置基準の関係で、2階に教室を設置するには非常電源が必要だったので、夏に設置した。今まで2階は特別教室しか設置できなかったが、これからは教室も設置できるようになった。
- ・災害時の対応、事務がなくなることに伴う対応、運営業務など検討しなければならないことが多くある。

3 防災フェスタの報告（パンフレット展示予定）

- ・非常食や防災用品を扱う業者の他に、自動車メーカー、行政、地域のキッチンカーなども参加して盛り上がりました。
- ・見学者は茅ヶ崎支援学校の保護者の他に、他校の保護者や教員、地域の福祉サービスの方も見学に来ていました。
- ・非常食ではアレルギー対応食の種類が増えていました。また、保存期間も長くなってきました。
- ・蓄電池に充電できるソーラーパネルの展示もありました。

	<p>災害時、電気が復旧していない場合も、日光で蓄電池に充電できるとのこと。1枚5万円程度。</p> <p>4 ARを使った防災教育（体験予定）</p> <ul style="list-style-type: none">・AR ゴーグルで煙体験と消火体験を行った。バーチャルで見ること、よりリアルに火事を考えることができるのではないか。 <p>5 情報交換・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none">・以前に参加した研修会で渡り廊下の危険性についての情報があった。大きな地震の場合、圧を逃がす必要があり、それで渡り廊下が崩落するケースがあるそうだ。渡り廊下の下を避難経路にすると上から物が落ちてくる可能性があるため、渡り廊下の下は避難経路にはしない。（本校の経路は通らないようになっている。）・上から落ちてくるものから頭を守ることが大切なので、地震の際にはその場でしゃがんで頭を守るシェイクアウトの習慣をつけるようにしていくことが大切。・小田原支援学校は本校の他に、大井分教室と湯河原校舎があるので、3か所を管理する必要があるため、防災対策は大変だと思う。 <p>6 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none">・2/25（火）第4回防災部会
--	--